

《健康科学部共通事項》

4. 進級・卒業

1 進級

(1) 進級要件

「第3年次への進級に関する内規」に基づき、2年次から3年次への進級に必要な単位数は48単位です。

2年次修了時点で卒業要件科目の内48単位以上修得した学生は、修得科目に関わらず3年次へ進級できます。

1年次から2年次へ、3年次から4年次への進級要件はありませんので、自動的に進級します。

なお、1セメスター休学した場合でも次の学年に進級しますが、2セメスター連続して休学した場合は、原級にとどまります。

(2) 進級時期

進級時期は、3月(2年次秋学期)のみです。2年次春学期修了時点で進級要件を充足しても年度途中に3年次へ進級することはありません。

(3) 進級不可(留年)について

進級不可(留年)となった学生については、3月中旬に保証人宛に通知します。

2 卒業

(1) 卒業要件

大学を卒業するためには、次の2点を満たさなければなりません。

- ・ 通算して4年(8セメスター)以上在学した者(休学期間は除く)。
- ・ 所定の128単位(卒業に必要な単位数)を修得した者。

注) 所定の128単位(卒業に必要な単位数)については、各学科のカリキュラム概要を参照してください。4年次修了時点で条件を満たしていなければ、128単位以上修得していても卒業することはできません。

(2) 学位の授与

卒業要件を充足した者は、「愛知学院大学学則」第37条により学士(健康科学)の学位が授与されます。

(3) 卒業時期

卒業時期は、3月または9月のいずれかです。

- ・ 3月卒業
4年次秋学期修了時点で卒業要件を充足した者。
卒業可能者には、3月上旬に保証人宛に通知します。
- ・ 9月卒業
4年次春学期修了時点で、4年(8セメスター)以上在学し、卒業要件を充足した者。
卒業可能者には、9月中旬に保証人宛に通知します。

(4) 卒業不可(留年)について

卒業不可(留年)となった学生については、3月上旬に保証人宛に通知します。

次年度以降の卒業に関する調査を行います。「卒業に関する調査」を履修登録期間までに教務課へ提出してください。

3 進級・卒業要件充足状況の確認方法

WebCampusで、履修登録をした科目の進級・卒業要件充足状況を確認することができます。

【健康科学科】

カリキュラム概要

健康科学科の卒業要件単位について

卒業するためには「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たすことが必要です。

教養教育科目	+	専門教育科目 (専門選択科目を除く)	+	グレーゾーン	=	卒業要件単位
24 単位		92 単位		12 単位		128 単位

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
- ・○は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
- ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。

履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。

教養教育科目 (24 単位)

分 野		要件単位		1年次	2年次	3年次	4年次
		分野合計	内訳				
宗教学		4単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ 各②			
教養基幹科目	人文系	20単位		心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②			
	社会系			法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、経済学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、歴史学Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各②			
	自然系			数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅰ・Ⅱ、生物学Ⅰ・Ⅱ、情報科学Ⅰ・Ⅱ 各②			
	主題系			情報科学Ⅲ・Ⅳ 各②			
外国語科目	英語(注1)	20単位	6単位	英語Ⅰa・Ⅱa、英語Ⅰb・Ⅱb、英語Ⅰc・Ⅱc 各①			
	エレクトティブ			英会話Ⅰ・Ⅱ、メディア英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現Ⅰ・Ⅱ、英語読解Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ 各①			
				英会話Ⅲ・Ⅳ、メディア英語Ⅲ・Ⅳ、英語表現Ⅲ・Ⅳ、英語読解Ⅲ・Ⅳ、実践英語Ⅲ・Ⅳ 各①			
				ドイツ語Ⅰ(基礎)・Ⅱ(基礎) 各① 中国語Ⅰ(基礎)・Ⅱ(基礎) 各① フランス語(注2) 韓国語Ⅰ(基礎)・Ⅱ(基礎) 各① スペイン語Ⅰ(基礎)・Ⅱ(基礎) 各①			
健康総合科学科目		20単位		スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①			
				スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ 各①			
海外事情科目		20単位		海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①			
合計		24単位	※ 「教養教育科目」において、24単位を超えた単位は「グレーゾーン」に算入される。 (注1) 外国人留学生の外国語科目の履修はP.40参照 (注2) フランス語はⅠ・Ⅱ(基礎)、Ⅲ・Ⅳ(総合)のみ開講				

グレーゾーン (12 単位)

	分 野	要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次
グレーゾーン	専門 選択科目	12単位	プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ、手話 各②			
			健康キャリア論、手話演習、海外健康・スポーツ論 各②		インターンシップ ②	
			海外健康・スポーツ研修 ②			
	その他		【グレーゾーンに算入される単位】 ・「教養教育科目」の要件 24 単位を超えて修得した科目の単位 ・「専門教育科目」の要件 92 単位を超えて修得した科目の単位			
			「他学部・他学科科目」で修得した単位（18 単位まで修得可） ※ グレーゾーンの要件 12 単位を超えた場合、6 単位まで「専門展開科目Ⅱ」に算入される。			

カリキュラム概要

専門教育科目 (92 単位)

分 野	要件単位	1年次	2年次	3年次	4年次
専門基礎科目	10単位以上	健康科学入門、プレセミナーⅠ・Ⅱ 各②			
		健康リハビリテーション医学入門(医学総論を含む)、健康スポーツ科学入門、健康教育学入門 各②			
専門基礎科目	16単位以上	解剖学、学校保健(学校安全等を含む)、生理学 各②			
		衛生学・公衆衛生学、学習・認知心理学、救急・応急処置、健康医学(内科学を含む)、健康統計学、言語学、生涯発達心理学、健康スポーツ栄養学、健康スポーツ心理学、精神医学・精神保健、病理学、分子遺伝学、リハビリテーション医学、遺伝・画像診断学、スポーツ歯科医学、スポーツ医学 各②			
		小児科学、生活習慣病論、救急・応急処置演習 各②			
		社会保障・教育 ②			
専門展開科目Ⅰ	18単位以上	薬理概論、養護概説Ⅰ・Ⅱ、看護学、体力測定・評価 各②			
健康開発科学科目		小児保健学、微生物・免疫学、予防医学、栄養生化学、学校保健演習、看護演習、健康情報と医学、生涯健康論、介護概論、運動生理学 各②			
健康スポーツ科学科目		健康運動指導実技(アクアビクス)・(エアロビクス)・(ジョギング・ウォーキング)、レクリエーションスポーツ実習Ⅰ・Ⅲ 各①運動生理学演習、体力測定・評価演習、生涯学習社会論、保健科教育法Ⅲ 各②			
言語聴覚科学科目		体育原理、保健体育科教育法Ⅲ 各②			
		運動学(運動方法学を含む)、障がい者スポーツ論、スポーツ経営学、トレーニング科学論、バイオメカニクス、各②			
		体育実技(器械運動)・(水泳)・(ダンス)・(陸上競技) 各①			
		健康スポーツ心理学演習、トレーニング演習、保健体育科教育法Ⅳ 各②			
		言語聴覚障害総論、臨床歯科医学、言語発達学Ⅰ、聴覚系の構造・機能・病態 各②			
		臨床神経学、形成外科学、呼吸・発声発語系の構造・機能・病態・検査、神経系の構造・機能・病態・画像検査、音声学、失語症Ⅰ、言語発達障害学Ⅰ(総論)、言語発達障害学Ⅱ(評価)、機能性構音障害、器質性構音障害、聴力検査、基礎演習Ⅰa・Ⅰb、基礎演習Ⅱ、言語発達学Ⅱ 各②			
専門展開科目Ⅱ	92単位以上	健康相談(カウンセリング)、食物化学(食品学を含む)、臨床栄養学、看護実習、環境健康医学、喫煙と健康、先端医療概論、長寿科学、学校看護学、メンタルヘルス、運動療法論、レクリエーションスポーツ論 各②			
健康開発科学科目		レクリエーションスポーツ実習Ⅱ ①			
健康スポーツ科学科目		運動療法演習、レクリエーションスポーツ演習、集団健康論、障がい者サポート演習、健康スポーツリサーチ演習、保健科教育法Ⅰ・Ⅱ 各②			
言語聴覚科学科目		保健科教育法Ⅳ ②			
	16単位以上	健康スポーツ情報論、スポーツ政策論、スポーツイベント論、コーチング学、スポーツ社会学、スポーツ文化論、スポーツマーケティング 各②			
		体育実技(剣道)・(サッカー)・(柔道)・(ソフトボール)・(テニス)・(バスケットボール) 各①			
		健康運動指導演習、コーチング演習、障がい者スポーツ演習、健康スポーツ栄養学演習、メディカルコンディショニング演習、トレーニングプログラミング演習、リハビリテーション演習(スポーツ含む)、バイオメカニクス演習、保健体育指導演習、パフォーマンス分析論 各② 体育実技(ハンドボール)・(卓球) 各①			
		体づくり運動の理論と実践、保健体育学習支援演習、保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ 各②			
		保健体育実践演習 ②			
		耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、失語症Ⅱ、高次脳機能障害学、言語発達障害学Ⅲ(応用)、音声障害、運動障害性構音障害、摂食嚥下障害学、吃音・流暢性障害、聴覚障害(小児聴覚障害・成人聴覚障害)、視覚聴覚二重障害、補聴器・人工内耳、臨床評価学演習、摂食嚥下障害学演習、応用演習Ⅰa・Ⅰb、応用演習Ⅱa・Ⅱb、高次脳機能障害学演習 各②			
		臨床心理学、心理測定法、音響学・聴覚心理学、言語聴覚療法管理学、地域言語聴覚療法学 各②			
専門総合科目	16単位以上	見学実習 ①(注3)			
		健康科学総合演習Ⅰ・Ⅱ 各② 評価実習 ⑤(注3)			
		専門セミナーⅠ・Ⅱ 各② 卒業論文 ⑧、総合臨床実習 ⑨(注3)			

※92単位を超えて修得した科目は「グレーゼーション」に算入される。

(注3) 言語聴覚士受験資格取得のためには必修です。

卒業要件に算入されない科目

分 野	単位	1年次	2年次	3年次	4年次
自由選択科目	卒業要件に算入しない	キャリア・デザイン②			
		サービスマーケティング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②、地域連携学A・B・C・D 各②			
		長期インターンシップ④			

I. 大学で学ぶために

II. 授業・試験・成績

III. 履修関連事項

IV. カリキュラム

V. 諸資格の取得

VI. カリキュラムマップ
科目ナンバリング

VII. 諸規則

VIII. 教室見取図

地域・社会連携コースの説明 ～新しいことに挑戦し、視野を広め、課題解決する力を身につけたい人へ～

地域・社会連携コースは学部授業とは別に社会人基礎力を身につけることを目的とし、1年次より設定したAGU独自のカリキュラムです。どの学部の学生も自由に参加できます。

1 地域・社会連携コースの特色

●身に付く能力

経済産業省が提唱している、人生100年時代に求められるスキル「社会人基礎力」を身につけ、仕事での活躍はもちろん、生活する地域でも活躍する「地域貢献」型の人材を目指しましょう。

●社会人基礎力とは

●前に踏み出す力(アクション) ～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む～

主体性:物事に進んで取り組む力
働きかける力:他人に働きかけ巻き込む力
実行力:目的を設定し確実に行動する力



●考え抜く力(シンキング) ～疑問を持ち、考え抜く～

課題発見力:現状を分析し目的や課題を明らかにする力
計画力:課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
創造力:新しい価値を生み出す力



●チームで働く力(チームワーク) ～多様な人々とともに、目標に向けて協力する～

発信力:自分の意見をわかりやすく伝える力
傾聴力:相手の意見を丁寧に聴く力
柔軟性:意見の違いや立場の違いを理解する力
状況把握力:自分と周囲の人々や物事との関係を理解する力
規律性:社会のルールや人との約束を守る力
ストレスコントロール力:ストレスの発生源に対応する力



参考:経済産業省 「人生100年時代の社会人基礎力」

●コーディネーターによる学生支援

様々な協力者との連携により授業の内容が構成されています。コーディネーターは授業の担当教員でもあり、プログラムの調整、学生の指導を行います。各授業について、履修相談から活動中の困りごとなど適宜、相談にのります。

2 科目の説明

I. サービスラーニング実習Ⅰ～Ⅳ

行政・非営利団体(NPO)・商店街・企業と連携し様々な社会課題を知り、活動するプログラム。連携先の団体と活動する入門的な実習科目です。事前に専門的な知識を身に付ける必要は無く、活動を通して理解を深めます。例えば、高齢化による認知症の問題を考えるプログラムでは、行政の取組みや当事者との交流を行います。ボランティアの活動、講義形式の授業、グループワーク、打ち合わせなど1つのプログラム(実習科目)の中に様々な活動の形態があります。活動と思考を繰り返しながら社会課題に取り組む意義を理解します。何かやってみたいと思う気持ちがあれば参加できます。

II. 地域連携学A・B

地域・社会の問題に取り組む実務家を講師に招き、講義を行います。実務家とは、非営利団体(NPO)、企業、行政などで働く方々です。講義を聴くだけでなく、グループでのディスカッションや講師との対話から、学びと気づきを共有します。

III. 地域連携学C・D

地域連携学C・Dはフィールドワークを行うプログラムです。地域連携学Cでは、2011年の東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故により避難区域に指定されていた福島県川俣町に赴き、避難解除後の復興の現状を知り、地域の方々と交流を通して学び気づきをえます。地域連携学Dでは北海道の厚沢部町で、過疎化が進む地域でファームステイをしながら交流を通して町が抱える過疎化の課題解決を考え実践します。

IV. 課題解決型演習Ⅰ～Ⅳ

課題解決に必要な基礎素養を学ぶとともに、NPO、商店街・企業グループ・学校等と連携、実務家の方々と一緒に地域の課題解決プロジェクトを企画立案することを通して、調査、分析、提案という課題解決のスキルの習得を目標とする企画実践型のプログラムです。「名古屋城三の丸地区の関係づくり」プロジェクト等、社会連携センターの支援を受けながら連携先との協議を踏まえ、新しい地域づくりに挑戦します。

地域・社会連携コースの説明

～新しいことに挑戦し、視野を広め、課題解決する力を身につけたい人へ～

3 地域・社会連携コース科目の詳細

科目名	授業内容	開講年次	単位数	評価方法
サービスマーケティング実習 I～IV	各テーマによるボランティア活動 事前学習 2日～3日の実習 振り返り会 レポート作成	1年次より履修可能	1単位 (卒業要件単位に算入されない)	認定
地域連携学A (産官民提携講座IV) 地域連携学B	実務家講師による講義 15回の講義形式の授業 記述式試験	2年次より履修可能	2単位 (卒業要件単位に算入されない)	総合評価
地域連携学C・D	地域に赴きフィールドワーク 事前学習 2日～7日現地での活動 振り返り会 レポート作成	1年次より履修可能	2単位 (卒業要件単位に算入されない)	認定
課題解決型演習 I (産官民提携講座V)	実務家講師による講義 15回の講義形式の授業 グループワークによる発表	2年次より履修可能	2単位 (卒業要件単位に算入されない)	総合評価
課題解決型演習 II～IV	各テーマによるプロジェクト演習 調査、グループワーク、発表 ※プロジェクト毎に活動形態は異なります。	1年次より履修可能	2単位 (卒業要件単位に算入されない)	認定

4 履修方法について

- ①WebCampusにて募集が案内されたのち社会連携センターのホームページ(<https://scc.agu.ac.jp/>)から申し込んでください。
春(4月)・秋(9月)頃に募集します。
- ②定員を越える応募があった場合は抽選にて人数調整を行います。
- ③受講が決まったら、受講開始までにコーディネーターの連絡に従い受講の準備を進めてください。
- ④履修についての質問は下記アドレスまで問い合わせください。
社会連携センター メールアドレス m-ccc@dpc.agu.ac.jp

諸資格の取得

教職、司書、司書教諭

次の諸資格の取得を希望する学生は、卒業に必要な単位のほかに定められた単位を修得しなければなりません。教職課程は1年次生、司書課程は2年次生、司書教諭課程は3年次生から履修することができますが、学費とは別に課程登録料が必要になります。詳細については、それぞれの説明会で説明しますので、希望者は必ず出席してください。
 (『資格課程履修要項』参照)

健康科学科	・中学校教諭1種「保健体育」 ・高等学校教諭1種「保健体育」 ・養護教諭1種 ・中学校教諭1種「保健」 ・高等学校教諭1種「保健」 ・図書館司書 ・学校図書館司書教諭 ・社会教育主事
-------	--

仏教専修科について

本学に在籍する文学部宗教文化学科以外の宗内生(曹洞宗寺院の子弟)で、在学中仏教専修科に籍を置き、所定の単位を修得し、宗務庁で規定する特殊安居の回数以上を修了したものは、曹洞宗二等教師の補任を受けることができます。詳細は、『文学部履修要項』で確認できます。

エクステンションセンター（キャリアセンターキャリア支援課）

皆さんの就職試験および各種資格試験対策を支援するために、エクステンションセンターがあります。エクステンションセンターでは、公務員採用試験対策(国家・地方公務員)をはじめ、行政書士・宅建・簿記・FP技能・証券外務員一種・旅行業務取扱管理者や保育士など専門性が高い講座を開講しています。

他方、秘書やサービス接遇で習得するビジネスマナーやコミュニケーション力は幅広い職業で役立ちます。MOS(Word,Excel,PowerPoint)やTOEIC®は今後必要なスキルです。この機会に始めてみませんか。さらに、SPI(企業が採用試験で用いる筆記テスト)対策まで、皆さんのニーズに応えられる幅広い講座を用意しています。各種資格試験の願書も取り揃えています。

各講座についての詳細は、オリエンテーションで配布している「2025年度 資格取得支援講座案内」を参照してください。またWebCampusのエクステンションセンターのタブから、Webパンフレットも見るすることができます。その他、4月上旬には、各専門学校の先生による合同説明会や、各講座ごとの個別説明会もあります。日程等は、大学アプリやWebCampusを通じてお知らせします。なお、ご意見・ご希望などがありましたら日進キャンパスのエクステンションセンター(3号館1階)または名城公園キャンパス事務室までお気軽にお申し出ください。

諸資格の取得

言語聴覚士コースにおける資格取得のための履修ガイドライン

言語聴覚士(ST)国家試験受験資格には言語必修47科目の履修が必要です。

言語聴覚士コースでは次のとおり、履修ガイドラインを定めます。

- 1) 1年次から2年次への言語聴覚士コースへの進級
 1. GPAは2.0以上であること
 2. その学年で開講されている言語必修科目を履修し、主要科目を修得していること
 3. 医療専門職としての適性を有すること
- 2) 2年次から3年次への言語聴覚士コースにおける進級
 1. GPAは2.3以上であること
 2. その学年で開講されている言語必修科目を履修し、主要科目を修得していること
 3. 医療専門職としての適性を有すること
- 3) 3年次から4年次への言語聴覚士コースにおける進級
 1. GPAは2.5以上であること
 2. その学年で開講されている言語必修科目を履修し、主要科目を修得していること
 3. 医療専門職としての適性を有すること
- 4) 4年次修了時の言語聴覚士コースにおける履修
 1. 言語必修科目を修得していること
 2. 医療専門職としての適性を有すること

備考)

- 言語必修科目は別表(P.49)を参照のこと(臨床実習を含め47科目)
- 必修科目未修得の場合でも、卒業要件を満たせば卒業は可能ですが、国試受験資格は失います。必修科目未修得の学生は卒業を延期できる場合があります。
- 進級基準によって言語聴覚士コースに進めない場合も、納入済みの実習諸経費は返還されません。健康科学科では担当教員の指導により、専門セミナーにおいて卒業論文を作成することができます。
- 未修得の必修科目を再度履修しようとした場合などで、時間割上、ガイドラインに沿った履修が困難な場合が生じても考慮されません。

諸資格の取得

(1) 健康運動指導士

資格内容：保健医療関係者と連携しつつ安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成および実践指導計画の調整などを行う役割を担う者を指します。最近では、病院、老人福祉施設、介護保険施設や介護予防事業などで活躍している方の増加が目立っています。

認定団体：(公財)健康・体力づくり事業財団

取得方法：4年次の7月下旬～9月上旬、10月下旬～12月上旬、2月中旬～3月下旬に筆記試験を受験します。

受験方法：所定の単位を修得することで受験資格が得られます。4月にWebCampusから案内します。

備考：単位の修得状況により受験できる日程が異なるので注意してください。

ポイント：運動指導者として必須の資格です。運動指導者としての就職を考えている学生は必ず取得してください。

(2) 健康運動実践指導者

資格内容：自ら見本を示せる実技能力と、特に集団に対する運動指導技術に長けた者を指します。フィットネスクラブや介護保険施設などで活躍しています。

認定団体：(公財)健康・体力づくり事業財団

取得方法：3年次または4年次に実技試験(11月下旬～12月上旬)、筆記試験(11月下旬～2月上旬)を受験します。

受験方法：3年次または4年次の春学期までに所定の単位を修得することで受験資格が得られます。7月上旬に「受験申込用紙」を配付します。4月にWebCampusから案内します。

ポイント：3年次秋学期に受験し、合格すれば、履歴書に記載することができ、就職活動の大きなアドバンテージとなります。

(3) スポーツプログラマー

資格内容：主として青年期以降の全ての人に対し、地域スポーツクラブなどにおいて、フィットネスの維持や向上のための指導・助言を行う者を指します。

認定団体：(公財)日本スポーツ協会

取得方法：4年次の1月下旬～2月上旬に筆記試験を受験します。

受験方法：卒業までに所定の単位を修得することで受験資格が得られます。4年次にWebCampusから案内します。

(4) エアロビクコーチ1

資格内容：子どもたちや初心者を対象に、エアロビクの専門的な知識を活かし、年齢や性別などの対象に合わせてスポーツ教室の指導にあたる者を指します。特に発育発達期の子どもに対しては、総合的な動きづくりに主眼を置き、遊びの要素を取り入れた指導にあたることができます。

認定団体：(公社)日本エアロビク連盟、(公財)日本スポーツ協会

取得方法：4年次の1月に実技試験および筆記試験を受験します。

受験方法：卒業までに所定の単位を修得することで受験資格が得られます。4年次にWebCampusから案内します。

ポイント：エアロビクの基本的な資格です。健康づくりの運動指導者を目指している人はもちろんのこと、ダンスが必修になった学校教育でも十分活かせる資格です。

(5) スポーツ指導者共通科目 III 免除申請

資格内容：日本スポーツ協会の資格はどの種目にも共通の内容である共通科目とその種目の内容である専門科目に分かれています。申請を行うことによって、卒業後、資格を取得する際に共通科目の講習が免除されます。

認定団体：(公財)日本スポーツ協会

取得方法：4年次の1月下旬～2月上旬に申請用紙を提出します。

申請方法：卒業までに所定の単位を修得することで申請資格が得られます。4年次にWebCampusから案内します。

備考：エアロビクコーチ1、スポーツプログラマーを受験する学生は自動的に申請されます。

ポイント：様々なスポーツの指導者になりたいと考えている学生にとっては必須の申請です。また自動的に「コーチングアシスタント」の資格が付与されます。

(6) レクリエーションインストラクター

資格内容：様々な遊びのメニューと技術を持ち、楽しさの体験を多くの人に提供できる人材です。レクリエーションに興味・関心を持つ人のための入門的な資格です。

認定団体：(公財)日本レクリエーション協会

取得方法：4年次の11月までに「実習チェック票」を提出してください。

申請方法：卒業までに所定の単位を修得することおよび学外事業に参加することで申請資格が得られます。

ポイント：取得＝就職できるというわけではありませんが、どの分野においても、活かせる資格です。

諸資格の取得

(7) JATI トレーニング指導者

資格内容：対象や目的に応じて、科学的根拠に基づく適切な運動プログラムを作成・指導するために必要な知識を習得した者を指します。スポーツ選手や一般人を対象としたトレーニング指導の専門家として活動するための基礎資格として位置づけられます。

認定団体：(NPO) 日本トレーニング指導者協会

取得方法：3年次または4年次の1月～2月に筆記試験を受験します。

申請方法：3年次または4年次の秋学期までに所定の単位を修得することで受験資格が得られます。秋学期にガイダンスを行います。

ポイント：スポーツ選手と一般人の両方を対象としている資格です。

(8) CPR-AED インストラクター資格

資格内容：心肺蘇生法(AED含む)、ジュニア・ベビーの心肺蘇生法、応急手当の止血・包帯法、運搬法等の応急手当全般にわたる技術を習得し、一般企業従業員、学校の学生・生徒、市民などを対象として、心肺蘇生法を中心に救急・応急処置の指導(指導補助を含む)ができます。

認定団体：(一社) 日本救急蘇生普及協会

取得方法：「救急・応急処置」ならびに「救急・応急処置演習」の単位を修得することで、日本救急蘇生普及協会の実施する検定試験受験資格が得られます。検定試験合格後、救急・応急処置講習会への指導参加後にインストラクター資格を取得できます。

申請方法：2年次秋学期の「救急・応急処置」ならびに3年次春学期の「救急・応急処置演習」を受講。3年次の「救急・応急処置演習」時にガイダンス実施します。

ポイント：本学の講義受講(救急・応急処置ならびに演習)により、所定の講習受講済と認定され、受験資格を得ることができます。幅広い層に対して、救急・応急処置の指導(指導補助を含む)ができます。

諸資格の取得

I. 大学で学ぶために

II. 授業・試験・成績

III. 履修関連事項

IV. カリキュラム

V. 諸資格の取得

VI. カリキュラムマップ

VII. 諸規則

VIII. 教室見取図

国家資格	所轄・認定団体	本大学での取得方法
言語聴覚士	厚生労働省所管 (財)医療研修推進財団	所定の科目(言語聴覚士コース系科目)を修得すると、財団実施の国家試験受験資格が得られる。
保育士	(社)全国保育士養成協議会	1年以上在学し、2年次末までに62単位以上修得することが見込まれると、受験資格が得られる。

法人・学会認定資格	所轄・認定団体	本大学での取得方法
健康運動指導士	(公財)健康・体力づくり事業財団	所定の科目を修得し卒業すると、受験資格が得られる(認定養成校)。
健康運動実践指導者	(公財)健康・体力づくり事業財団	所定の科目を修得すると、受験資格が得られる(認定養成校)。
コーチングアシスタント	(公財)日本スポーツ協会	所定の科目を修得し卒業すると取得できる(適応コース承認校)。
スポーツプログラマー	(公財)日本スポーツ協会	所定の科目を修得すると、受験資格が得られる(適応コース承認校)。
エアロビックコーチ1 (競技別指導者資格)	(公財)日本スポーツ協会 (公社)日本エアロビック連盟	所定の科目を修得すると受験資格が得られる(適応コース承認校)。
レクリエーション・インストラクター	(公財)日本レクリエーション協会	所定の科目を修得し卒業すると取得できる(協会認定校)。
JATIトレーニング指導者	(NPO)日本トレーニング指導者協会	所定の科目を修得すると、受験資格が得られる(協会認定校)。
ヘルスケア・トレーナー	(公財)中央労働災害防止協会	卒業すると養成研修の受講資格が得られる。なお、健康運動指導士を取得すると、研修の一部が免除される。
ヘルスケア・リーダー	(公財)中央労働災害防止協会	特になし (18歳以上で養成研修を受講できる)。
CPR-AEDインストラクター (心肺蘇生法指導者)	(一社)日本救急蘇生普及協会	「救急・応急処置」と「救急・応急処置演習」を修得すると、受験資格が得られる(協会認定校)。
その他 診療報酬請求事務能力認定 医療事務管理士 介護事務管理士 など		関連科目を修得すると、認定試験などに有用である。

任用資格	所轄・認定団体	本大学での取得方法
社会教育主事	文部科学省	社会教育主事課程科目を修得する(『資格課程履修要項』参照)。
社会福祉主事	厚生労働省	厚生労働省の定める「社会福祉に関する科目」を3科目以上修得し卒業することにより取得することができる(三科目主事)。該当科目などの詳細は教務課に問合せること。

詳細はオリエンテーション時の配付資料や学科ホームページなどを参照

諸資格の取得

健康科学科スポーツ系カリキュラム一覧

資格名 科目名	開講年次	健康運動指導士	健康運動実践指導者	スポーツプログラマー	スポーツ指導者共通科目	コーチングアシスタント	エアロビックコーチ1	JATトレーニング指導者	レク・インストラクター	チェック欄
健康科学入門	1	●	●	○	○	○	○	○	○	
健康教育学入門	1	●	●	●						
健康スポーツ科学入門	1	●	●	●	●	●	●	●		
解剖学	1	●	●					●		
衛生学・公衆衛生学	2	●	●							
救急・応急処置	2	●	●	●	●	●	●	●		
健康スポーツ栄養学	2	●	●	●	●	●	●	●		
健康スポーツ心理学	2	●	●	●	●	●	●	●		
スポーツ医学	2	●	●					●		
生活習慣病論	3	●						●		
救急・応急処置演習	3	●	●							
体力測定・評価	1	●	●					●		
運動学(運動方法学を含む)	2	●	●	●	●	●	●			
運動生理学	2	●	●	●	●	●	●	●		
スポーツ経営学	2							●		
スポーツ政策論	2			●	●	●	●			
障がい者スポーツ論	2			●	●	●	●			
トレーニング科学論	2	●	●	●	●	●	●	●		
バイオメカニクス	2	●	●					●		
スポーツ指導方法論	3			●	●	●	●	●		
スポーツ社会学	3			●	●	●	●			
スポーツ文化論	3			●	●	●	●			
レクリエーションスポーツ論	3								●	
健康運動指導実技(アクアビクス)	2	●	●	●						
健康運動指導実技(エアロビック)	2	●	●	●			●			
健康運動指導実技(ジョギング・ウォーキング)	2	●	●	●						
身体表現実技(エアロビック)	3						●			
レクリエーションスポーツ実習Ⅰ	2								●	
レクリエーションスポーツ実習Ⅱ	3								●	
体力測定・評価演習	2	●	●	●				●		
トレーニング演習	2	●	●	●			●	●		
運動療法演習	3	●						●		
健康運動指導演習(健康運動産業施設等現場実習)	3	●							●※1	
メディカルコンディショニング演習	3			●			●	●		
トレーニングプログラミング演習	3			●				●		
レクリエーションスポーツ演習	3			●					●	
インターンシップ	2								●※1	

○は資格には関連がないが、健康科学科の必修科目であることを示す。

※1 選択必修。どちらか履修しなくてはならない。

I. 大学で学ぶために

II. 授業・試験・成績

III. 履修関連事項

IV. カリキュラム

V. 諸資格の取得

VI. カリキュラムマップ
科目ナンバリング

VII. 諸規則

VIII. 教室見取図

【健康栄養学科】

カリキュラム概要

健康栄養学科の卒業要件単位について

卒業するためには「愛知学院大学学則」第8条に定める次の要件を満たすことが必要です。

教養教育科目 24 単位	+	専門教育科目 80 単位	+	グレーゾーン 24 単位	=	卒業要件単位 128 単位
-----------------	---	-----------------	---	-----------------	---	------------------

○卒業要件の確認ポイント

- ・表中の○内にある数字は「単位数」を表しています。
 - ・は「必修科目」で、卒業までに修得する必要があります。
 - ・「要件単位」は分野ごとに修得する必要がある単位数です。
- 履修科目ごとの分野及びその要件単位を確認のうえ、計画的に単位を修得してください。**

教養教育科目 (24 単位)

分野		卒業要件(24単位)		1年次	2年次	3年次	4年次
		分野合計	内訳				
宗教学		4単位	4単位	宗教学Ⅰ・Ⅱ 各②			
教養基幹科目	人文系	12単位		心理学Ⅰ・Ⅱ、哲学Ⅰ・Ⅱ、論理学Ⅰ・Ⅱ、文学Ⅰ・Ⅱ、美術Ⅰ・Ⅱ 各②			
	社会系			法学Ⅰ・Ⅱ、政治学Ⅰ・Ⅱ、経済学Ⅰ・Ⅱ、社会学Ⅰ・Ⅱ、教育学Ⅰ・Ⅱ、歴史学Ⅰ・Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ 各②			
	自然系		6単位	化学Ⅰ、生物学Ⅰ、情報科学Ⅰ 各②			
				数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ、化学Ⅱ、生物学Ⅱ、情報科学Ⅱ 各②			
	主題系				情報科学Ⅲ・Ⅳ 各②		仏教と現代社会Ⅰ・Ⅱ、禅と人間Ⅰ・Ⅱ、生命に関する諸問題Ⅰ・Ⅱ、人間行動の理解Ⅰ・Ⅱ、人間の尊厳と平等Ⅰ・Ⅱ、日本の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、アジアの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパの文化と社会Ⅰ・Ⅱ、英語圏の文化と社会Ⅰ・Ⅱ、人間と環境Ⅰ・Ⅱ、情報と社会Ⅰ・Ⅱ、産業と科学Ⅰ・Ⅱ、ソフトウェア概論Ⅰ・Ⅱ 各②
外国語科目 (注1)	英語	6単位	4単位	英語Ⅰa・Ⅱa、英語Ⅰb・Ⅱb 各①			
	ドイツ語 中国語 フランス語 韓国語 スペイン語		2単位	英語Ⅰc・Ⅱc 各①			
				ドイツ語Ⅰ(基礎)・Ⅱ(基礎) 各①			
				中国語Ⅰ(基礎)・Ⅱ(基礎) 各①			
				フランス語Ⅰ(基礎)・Ⅱ(基礎) 各①			
				韓国語Ⅰ(基礎)・Ⅱ(基礎) 各①			
				スペイン語Ⅰ(基礎)・Ⅱ(基礎) 各①			
健康総合科学科目		2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 各①			
合計		24単位	※ 「教養教育科目」において、24単位を超えた単位は「グレーゾーン」に算入される。 (注1) 外国人留学生の外国語科目の履修はP.80参照				

グレーゾーン (24 単位)

グレーゾーン	要件単位 24単位	1年次	2年次	3年次	4年次
		英会話Ⅰ・Ⅱ、メディア英語Ⅰ・Ⅱ、英語表現Ⅰ・Ⅱ、英語読解Ⅰ・Ⅱ、実践英語Ⅰ・Ⅱ 各① 英会話Ⅲ・Ⅳ、メディア英語Ⅲ・Ⅳ、英語表現Ⅲ・Ⅳ、英語読解Ⅲ・Ⅳ、実践英語Ⅲ・Ⅳ 各①			
		ドイツ語 中国語 ※フランス語 韓国語 スペイン語 Ⅲ(読解)・Ⅳ(読解)、Ⅲ(表現)・Ⅳ(表現)、Ⅲ(総合)・Ⅳ(総合)、 会話Ⅰ・Ⅱ、会話Ⅲ・Ⅳ(韓国語のみ) 各①			
		スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ 各①			
		海外事情Ⅰ・Ⅱ 各②、海外事情Ⅲ・Ⅳ 各①			
		・「教養教育科目」の要件 24 単位を超えて修得した科目の単位 ・「専門教育科目」の要件 80 単位を超えて修得した科目の単位			
		「他学部・他学科科目」で修得した単位 (24 単位まで修得可)			

※フランス語はⅢ・Ⅳ(総合)のみ開講

自由選択科目 (卒業要件に算入せず)

自由選択科目	卒業要件に 算入しない	1年次	2年次	3年次	4年次
		キャリア・デザイン②			
		サービスマーケティング実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各①、課題解決型実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②、地域連携学A・B・C・D 各②			
		長期インターンシップ④			

カリキュラム概要

専門教育科目 (80 単位)

分野		卒業要件 (80単位)	1年次	2年次	3年次	4年次
専門基礎科目	社会・環境 と健康	4 単位	健康管理概論②	健康心理学②	公衆衛生学② 医療福祉概論②	公衆衛生学実習①
	人体の構造と機能、 疾病の成り立ち	10 単位 27 単位以上	人体構造学② 生体機能学② 生化学総論② 健康スポーツ医学②	人体構造機能学実験① 生化学各論② 生化学基礎実験① 生化学応用実験① 病理学② 生活習慣病論② 病原微生物学② 医科学Ⅰ(代謝・栄養系等)②	医科学Ⅱ(消化器等)② 薬理概論②	医科学Ⅲ(その他の疾患)②
	食べ物と健康	13 単位	食品成分学② 食品機能評価法② 調理学② 調理科学実験① 基礎調理実習① 応用調理実習①	食品機能化学② 食品安全管理学② 食品安全学実験① 食品基礎分析実験法①	食品健康科学論② 食品応用分析実験法①	
専門基幹科目	基礎 栄養学	3 単位	基礎栄養学②	栄養学実験① 栄養生理学②		
	応用 栄養学	5 単位		応用栄養学② 母子栄養学② 加齢栄養学②	スポーツ栄養学② 応用栄養学実習①	
	栄養 教育論	5 単位	栄養教育論②	栄養教育実習① 栄養カウンセリング論② 健康・栄養情報演習①	栄養教育各論② 健康行動科学②	
	臨床 栄養学	5 単位 24 単位以上		臨床栄養学総論② 臨床栄養学各論②	分子栄養学② 栄養アセスメント論② 口腔機能論演習② 臨床栄養学実習① 運動療法論② 栄養ケアマネジメント論② 臨床栄養管理実験①	介護概論演習②
	公衆 栄養学	2 単位		食事調査演習① 公衆栄養学②	公衆栄養活動論② 環境健康医学②	公衆栄養学実習①
	給食経営 管理論	4 単位		給食経営管理論② フードサービス論②	給食経営管理基礎実習① 給食経営管理応用実習① フードマーケティング論②	
専門発展科目	総合 演習	1 単位	健康栄養科学入門①			健康管理総合演習① 管理栄養士総合基礎演習① 管理栄養士総合応用・臨床演習① 臨地実習事前事後演習①
	臨地 実習	1 単位			臨地実習Ⅰ(校外実習を含む)① 臨地実習Ⅱ②(注2) 臨地実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ①(注2)	
	総合 科目	6 単位		管理栄養士海外研修②	心身科学特論②	健康栄養学特論①
	管理栄養士 関連科目		有機化学② 分析化学②		健康栄養総合演習② 卒業研究⑧	健康栄養専門セミナー④ 管理栄養士セミナー②
合計		80単位	※80単位を超えて修得した科目は「グレーゾーン」に算入される。 (注2)管理栄養士は必修科目です。(Ⅲ・Ⅳ・Ⅴのいずれか1科目を選択)			

Ⅰ. 大学で学ぶために

Ⅱ. 授業・試験・成績

Ⅲ. 履修関連事項

Ⅳ. カリキュラム

Ⅴ. 諸資格の取得

Ⅵ. カリキュラムマップ
科目ナンバリング

Ⅶ. 諸規則

Ⅷ. 教室見取図

地域・社会連携コースの説明 ～新しいことに挑戦し、視野を広め、課題解決する力を身につけたい人へ～

地域・社会連携コースは学部授業とは別に社会人基礎力を身につけることを目的とし、1年次より設定したAGU独自のカリキュラムです。どの学部の学生も自由に参加できます。

1 地域・社会連携コースの特色

●身に付く能力

経済産業省が提唱している、人生100年時代に求められるスキル「社会人基礎力」を身につけ、仕事での活躍はもちろん、生活する地域でも活躍する「地域貢献」型の人材を目指しましょう。

●社会人基礎力とは

●前に踏み出す力(アクション) ～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む～

主体性:物事に進んで取り組む力

働きかける力:他人に働きかけ巻き込む力

実行力:目的を設定し確実に行動する力



●考え抜く力(シンキング) ～疑問を持ち、考え抜く～

課題発見力:現状を分析し目的や課題を明らかにする力

計画力:課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

創造力:新しい価値を生み出す力



●チームで働く力(チームワーク) ～多様な人々とともに、目標に向けて協力する～

発信力:自分の意見をわかりやすく伝える力

傾聴力:相手の意見を丁寧に聴く力

柔軟性:意見の違いや立場の違いを理解する力

状況把握力:自分と周囲の人々や物事との関係を理解する力

規律性:社会のルールや人との約束を守る力

ストレスコントロール力:ストレスの発生源に対応する力



参考:経済産業省 「人生100年時代の社会人基礎力」

●コーディネーターによる学生支援

様々な協力者との連携により授業の内容が構成されています。コーディネーターは授業の担当教員でもあり、プログラムの調整、学生の指導を行います。各授業について、履修相談から活動中の困りごとなど適宜、相談にのります。

2 科目の説明

I. サービスラーニング実習Ⅰ～Ⅳ

行政・非営利団体(NPO)・商店街・企業と連携し様々な社会課題を知り、活動するプログラム。連携先の団体と活動する入門的な実習科目です。事前に専門的な知識を身に付ける必要は無く、活動を通して理解を深めます。例えば、高齢化による認知症の問題を考えるプログラムでは、行政の取り組みや当事者との交流を行います。ボランティアの活動、講義形式の授業、グループワーク、打ち合わせなど1つのプログラム(実習科目)の中に様々な活動の形態があります。活動と思考を繰り返しながら社会課題に取り組む意義を理解します。何かやってみたいと思う気持ちがあれば参加できます。

II. 地域連携学A・B

地域・社会の問題に取り組む実務家を講師に招き、講義を行います。実務家とは、非営利団体(NPO)、企業、行政などで働く方々です。講義を聴くだけでなく、グループでのディスカッションや講師との対話から、学びと気づきを共有します。

III. 地域連携学C・D

地域連携学C・Dはフィールドワークを行うプログラムです。地域連携学Cでは、2011年の東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故により避難区域に指定されていた福島県川俣町に赴き、避難解除後の復興の現状を知り、地域の方々と交流を通して学び気づきを得ます。地域連携学Dでは北海道の厚沢部町で、過疎化が進む地域でファームステイをしながら交流を通して町が抱える過疎化の課題解決を考え実践します。

IV. 課題解決型演習Ⅰ～Ⅳ

課題解決に必要な基礎素養を学ぶとともに、NPO、商店街・企業グループ・学校等と連携、実務家の方々と一緒に地域の課題解決プロジェクトを企画立案することを通して、調査、分析、提案という課題解決のスキルの習得を目標とする企画実践型のプログラムです。「名古屋城三の丸地区の関係づくり」プロジェクト等、社会連携センターの支援を受けながら連携先との協議を踏まえ、新しい地域づくりに挑戦します。

地域・社会連携コースの説明

～新しいことに挑戦し、視野を広め、課題解決する力を身につけたい人へ～

3 地域・社会連携コース科目の詳細

科目名	授業内容	開講年次	単位数	評価方法
サービスマーケティング実習 I～IV	各テーマによるボランティア活動 事前学習 2日～3日の実習 振り返り会 レポート作成	1年次より履修可能	1単位 (卒業要件単位に算入されない)	認定
地域連携学A (産官民提携講座IV) 地域連携学B	実務家講師による講義 15回の講義形式の授業 記述式試験	2年次より履修可能	2単位 (卒業要件単位に算入されない)	総合評価
地域連携学C・D	地域に赴きフィールドワーク 事前学習 2日～7日現地での活動 振り返り会 レポート作成	1年次より履修可能	2単位 (卒業要件単位に算入されない)	認定
課題解決型演習 I (産官民提携講座V)	実務家講師による講義 15回の講義形式の授業 グループワークによる発表	2年次より履修可能	2単位 (卒業要件単位に算入されない)	総合評価
課題解決型演習 II～IV	各テーマによるプロジェクト演習 調査、グループワーク、発表 ※プロジェクト毎に活動形態は異なります。	1年次より履修可能	2単位 (卒業要件単位に算入されない)	認定

4 履修方法について

①WebCampusにて募集が案内されたのち社会連携センターのホームページ(<https://scc.agu.ac.jp/>)から申し込んでください。

春(4月)・秋(9月)頃に募集します。

②定員を越える応募があった場合は抽選にて人数調整を行います。

③受講が決まったら、受講開始までにコーディネーターの連絡に従い受講の準備を進めてください。

④履修についての質問は下記アドレスまで問い合わせください。

社会連携センター メールアドレス m-ccc@dpc.agu.ac.jp

諸資格の取得

教職(栄養教諭)

次の諸資格の取得を希望する学生は、卒業に必要な単位のほかに定められた単位を修得しなければなりません。教職課程は1年次生から履修することができますが、学費とは別に課程登録料が必要になります。詳細については、説明会で説明しますので、希望者は必ず出席してください。

(『資格課程履修要項』参照)

健康科学部健康栄養学科	・栄養教諭1種(管理栄養士に加える)
-------------	--------------------

仏教専修科について

本学に在籍する文学部宗教文化学科以外の宗内生(曹洞宗寺院の子弟)で、在学中仏教専修科に籍を置き、所定の単位を修得し、宗務庁で規定する特殊安居の回数以上を修了したものは、曹洞宗二等教師の補任を受けることができます。詳細は、『文学部履修要項』で確認できます。

エクステンションセンター(キャリアセンターキャリア支援課)

皆さんの就職試験および各種資格試験対策を支援するために、エクステンションセンターがあります。エクステンションセンターでは、公務員採用試験対策(国家・地方公務員)をはじめ、行政書士・宅建・簿記・FP技能・証券外務員一種・旅行業務取扱管理者や保育士など専門性が高い講座を開講しています。

他方、秘書やサービス接遇で習得するビジネスマナーやコミュニケーション力は幅広い職業で役立ちます。MOS(Word, Excel, PowerPoint)やTOEIC®は今後必要なスキルです。この機会に始めてみませんか。さらに、SPI(企業が採用試験で用いる筆記テスト)対策まで、皆さんのニーズに応えられる幅広い講座を用意しています。各種資格試験の願書も取り揃えています。

各講座についての詳細は、オリエンテーションで配布している「2025年度 資格取得支援講座案内」を参照してください。またWebCampusのエクステンションセンターのタブから、Webパンフレットも見ることができます。その他、4月上旬には、各専門学校先生による合同説明会や、各講座ごとの個別説明会もあります。日程等は、大学アプリやWebCampusを通じてお知らせします。なお、ご意見・ご希望などがありましたら日進キャンパスのエクステンションセンター(3号館1階)または名城公園キャンパス事務室までお気軽にお申し出ください。

諸資格の取得

資格別修得科目一覧

分 野		授業科目名	開講学年	卒業要件(数字は単位数)		管理栄養士	栄養士	食品衛生管理者 食品衛生監視員
				必 修	選 択			
専門教育科目	社会・環境と健康	医療福祉概論	3		2	○		
		健康心理学	2		2			
		公衆衛生学	3	2		○	○	D群
		公衆衛生学実習	4		1	○		D群
		健康管理概論	1	2		○	○	D群
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	人体構造学	1	2		○	○	E群
		生体機能学	1	2		○	○	B群
		人体構造機能学実験	2	1		○	○	B群
		生化学総論	1	2		○	○	B群
		生化学各論	2	2		○	○	B群
		生化学基礎実験	2	1		○	○	B群
		生化学応用実験	2		1	○		B群
		病理学	2		2			
		薬理概論	3		2			
		生活習慣病論	2		2	○		
		健康スポーツ医学	1		2			
		医科学Ⅰ(代謝・栄養系等)	2		2	○		
		医科学Ⅱ(消化器系等)	3		2			
		医科学Ⅲ(その他の疾患)	4		2			
		病原微生物学	2		2	○		C群
	食べ物と健康	食品成分学	1	2		○	○	B群
		食品基礎分析実験法	2	1		○	○	B群
		食品機能評価法	1	2		○	○	B群
		食品応用分析実験法	3		1	○		B群
		食品機能化学	2		2	○		B群
		食品健康科学論	3		2			
		調理学	1	2		○	○	E群
		調理科学実験	1	1		○	○	E群
		基礎調理実習	1	1		○	○	
		応用調理実習	1	1		○	○	
		食品安全管理学	2	2		○	○	C群
		食品安全学実験	2	1		○	○	C群
		基礎栄養学	1	2		○	○	E群
		栄養学実験	2	1		○	○	
		基礎栄養学	栄養生理学	2		2		
	応用栄養学		2	2		○	○	E群
	母子栄養学		2	2		○	○	E群
	加齢栄養学		2		2	○		
	応用栄養学	スポーツ栄養学	3		2			
		応用栄養学実習	3	1		○	○	E群
		栄養教育論	1	2		○	○	
		栄養教育各論	3	2		○	○	
	栄養教育論	栄養教育実習	2	1		○	○	
		栄養カウンセリング論	2		2	○		
		健康・栄養情報演習	2		1	○		
		健康行動科学	3		2			
	臨床栄養学	臨床栄養学総論	2	2		○	○	E群
		臨床栄養学各論	2	2		○	○	E群
		分子栄養学	3		2			
		栄養アセスメント論	3		2	○		
		栄養ケアマネジメント論	3		2	○		
		臨床栄養学実習	3	1		○	○	E群
		臨床栄養管理実験	3		1	○		
		介護概論演習	4		2			
	公衆栄養学	口腔機能論演習	3		2			
		運動療法論	3		2			
		公衆栄養学	2	2		○	○	E群
		公衆栄養活動論	3		2	○		
	給食経営管理論	環境健康医学	3		2			
		公衆栄養学実習	4		1	○		
		食事調査演習	2		1	○		
		給食経営管理論	2	2		○	○	
	給食経営管理論	給食経営管理基礎実習	3	1		○	○	
		給食経営管理応用実習	3	1		○	○	
		フードマーケティング論	3		2	○		
		フードサービス論	2		2			
	総合演習	健康栄養科学入門	1		1			
		健康管理総合演習	4		1			
		管理栄養士総合基礎演習	4		1	○		
		管理栄養士総合応用・臨床演習	4		1	○		
		臨地実習事前事後演習	3	1		○	○	
		臨地実習Ⅰ(校外実習を含む)	3～4	1		○	○	
		臨地実習Ⅱ	3～4		2 ^{*1}	○		
		臨地実習Ⅲ	3～4		1 ^{*2}	○		
		臨地実習Ⅳ	3～4		1 ^{*2}	○		
		臨地実習Ⅴ	3～4		1 ^{*2}	○		
	総合科目	健康栄養学特論	4		1			
		管理栄養士海外研修	2～4		2			
		健康栄養総合演習	3	2				
		健康栄養専門セミナー	4	4				
	管理栄養士関連科目	卒業研究	3～4		8			
		有機化学	1		2			A群
		分析化学	1		2			A群
管理栄養士セミナー		4		2				
専門教育科目における単位数		合 計	59	85	87	53	50	

*1 管理栄養士は必修

*2 臨地実習Ⅲ、臨地実習Ⅳ、臨地実習Ⅴのうち1科目を選択(管理栄養士は必修)

I. 大学で学ぶために

II. 授業・試験・成績

III. 履修関連事項

IV. カリキュラム

V. 諸資格の取得

VI. カリキュラムマップ
科目ナンバリング

VII. 諸規則

VIII. 教室見取図

諸資格の取得

管理栄養士国家試験受験資格を取得するために必要な専門教育科目

栄養士法施行規則に定める 科目区分		単位数		本学における開講科目	単位数	
		講義 又は演習	実験 又は実習		講義 又は演習	実験 又は実習
専門基礎分野	社会・環境と健康	6	10	医療福祉概論	2	
				公衆衛生学	2	
				公衆衛生学実習		1
	人体の構造と機能 及び疾病の成り立ち	14		健康管理概論	2	
				人体構造学	2	
				生体機能学	2	
				人体構造機能学実験		1
				生化学総論	2	
				生化学各論	2	
				生化学基礎実験		1
				生化学応用実験		1
				生活習慣病論	2	
				医科学Ⅰ（代謝・栄養系等）	2	
				病原微生物学	2	
	食べ物と健康	8		食品成分学	2	
				食品基礎分析実験法		1
				食品機能評価法	2	
				食品応用分析実験法		1
				食品機能化学	2	
				調理学	2	
				調理科学実験		1
				基礎調理実習		1
				応用調理実習		1
				食品安全管理学	2	
				食品安全学実験		1
専門分野	基礎栄養学	2	8	基礎栄養学	2	
				栄養学実験		1
	応用栄養学	6		応用栄養学	2	
				母子栄養学	2	
				加齢栄養学	2	
	栄養教育論	6		応用栄養学実習		1
				栄養教育論	2	
				栄養教育各論	2	
				栄養教育実習		1
				栄養カウンセリング論	2	
	臨床栄養学	8		健康・栄養情報演習	1	
				臨床栄養学総論	2	
				臨床栄養学各論	2	
				栄養アセスメント論	2	
				栄養ケアマネジメント論	2	
				臨床栄養学実習		1
				臨床栄養管理実験		1
	公衆栄養学	4		公衆栄養学	2	
				公衆栄養活動論	2	
				公衆栄養学実習		1
				食事調査演習	1	
	給食経営管理論	4		給食経営管理論	2	
				給食経営管理基礎実習		1
				給食経営管理応用実習		1
	総合演習	3		フードマーケティング論	2	
				管理栄養士総合基礎演習	1	
				管理栄養士総合応用・臨床演習	1	
	臨地実習	4		臨地実習事前事後演習	1	
				臨地実習Ⅰ（校外実習を含む）		1
				臨地実習Ⅱ		2
				臨地実習Ⅲ ^{*1}		1
				臨地実習Ⅳ ^{*1}		1
				臨地実習Ⅴ ^{*1}		1
合 計 56 科目					87 単位	

*1 いずれか1科目を選択

諸資格の取得

栄養士免許取得に必要な専門教育科目

栄養士法施行規則に定める 科目区分	単位数		本学における開講科目	単位数	
	講義 又は演習	実験 又は実習		講義 又は演習	実験 又は実習
社会生活と健康	4	4	公衆衛生学	2	
人体の構造と機能	8		健康管理概論	2	
			人体構造学	2	
			生体機能学	2	
			人体構造機能学実験		1
			生化学総論	2	
			生化学各論	2	
			生化学基礎実験		1
食品と衛生	6		食品成分学	2	
			食品機能評価法	2	
		食品基礎分析実験法		1	
		食品安全管理学	2		
		食品安全学実験		1	
栄養と健康	8	基礎栄養学	2		
		栄養学実験		1	
		応用栄養学	2		
		母子栄養学	2		
		応用栄養学実習		1	
		臨床栄養学総論	2		
		臨床栄養学各論	2		
		臨床栄養学実習		1	
栄養の指導	6	栄養教育論	2		
		栄養教育各論	2		
		栄養教育実習		1	
		公衆栄養学	2		
給食の運営	4	給食経営管理論	2		
		給食経営管理基礎実習		1	
		給食経営管理応用実習		1	
		調理学	2		
		調理科学実験		1	
		基礎調理実習		1	
		応用調理実習		1	
		臨地実習事前事後演習	1		
		臨地実習Ⅰ（校外実習を含む）		1	
		合 計 34 科目			53 単位

I. 大学で学ぶために

II. 授業・試験・成績

III. 履修関連事項

IV. カリキュラム

V. 諸資格の取得

VI. カリキュラムマップ
科目ナンバリング

VII. 諸規則

VIII. 教室見取図

諸資格の取得

食品衛生監視員および食品衛生管理者の任用資格を得るために必要な科目

養成施設指定科目区分	本学における開講科目	単位数	開講学年	単位修得要件	
A 群：化学関係	有機化学	2	1	A 群からD 群までそれぞれ1 科目以上 合計22 単位以上	A 群からE 群までの総単位数 合計40 単位以上
	分析化学	2	1		
B 群：生物科学関係	生体機能学	2	1		
	人体構造機能学実験	1	2		
	生化学総論	2	1		
	生化学各論	2	2		
	生化学基礎実験	1	2		
	生化学応用実験	1	2		
	食品成分学	2	1		
	食品基礎分析実験法	1	2		
	食品機能評価法	2	1		
	食品応用分析実験法	1	3		
	食品機能化学	2	2		
	病原微生物学	2	2		
C 群：微生物関係	食品安全管理学	2	2		
	食品安全学実験	1	2		
	公衆衛生学	2	3		
D 群：公衆衛生学関係	公衆衛生学実習	1	4		
	健康管理概論	2	1		
	人体構造学	2	1		
E 群：その他の関連科目	調理学	2	1		
	調理科学実験	1	1		
	基礎栄養学	2	1		
	応用栄養学	2	2		
	母子栄養学	2	2		
	応用栄養学実習	1	3		
	臨床栄養学総論	2	2		
	臨床栄養学各論	2	2		
	公衆栄養学	2	3		
	臨床栄養学実習	1	3		

I. 大学で学ぶために

II. 授業・試験・成績

III. 履修関連事項

IV. カリキュラム

V. 諸資格の取得

VI. カリキュラムマップ
科目ナンバリング

VII. 諸規則

VIII. 教室見取図